

発刊のことば



わたSHIGA輝く国スポ・障スポ
実行委員会会長
滋賀県知事 三日月 大造

天皇皇后両陛下をはじめ多くの皇室の皆様方の御臨席を仰ぎ開催いたしました第79回国民スポーツ大会「わたSHIGA輝く国スポ」および第24回全国障害者スポーツ大会「わたSHIGA輝く障スポ」は、両大会合わせて延べ約68万人もの御参加をいただき、成功裏に幕を閉じました。

これもひとえに、各地からお越しいただいた選手団や観客の皆様、開催準備・運営に御尽力いただいた市町・競技団体など大会関係者の皆様、様々な面で大会をお支えいただいた企業・団体・ボランティアの皆様、おもてなしや応援で参加いただいた県民の皆様の御理解と御協力の賜物であり、心から感謝申し上げます。

期間中、各地で熱戦が繰り広げられ、地域が盛り上がり、スポーツの力の大きさを感じるとともに、障害の有無に関わらず、スポーツを楽しむことの大切さを改めて実感しました。

滋賀県選手団は、国スポは天皇杯・皇后杯両賜杯の獲得、障スポでは過去最多となる174個のメダル獲得など、素晴らしい結果を収め、県民に大きな感動を与えてくれました。滋賀県選手団の活躍に心から敬意を表します。

今大会では「湖国の感動 未来へつなぐ」をスローガンに、環境配慮の実践や共生社会の実現など、滋賀らしい数々のチャレンジをいたしました。大会を通じて培った有形無形の価値をレガシーとして継承し、みんなが輝く「健康しが」を推進してまいります。

結びに、大会で生まれた夢や感動、連帯感が、皆様の未来の輝きへつながることを祈念申し上げまして、発刊のことばといたします。

発刊に寄せて



公益財団法人日本スポーツ協会
会長 遠藤 利明

約400万年の歴史を持つ日本最大で最古の湖である琵琶湖を中心に雄大な風景が広がり、古くから日本の文化や経済の先進地として栄えたここ滋賀県において開催された、第79回国民スポーツ大会は、天皇皇后両陛下の御臨席を仰ぎ、多くの成果と深い感動を残し、盛会裏にその幕を閉じました。

開催に際し、長きにわたり諸準備にご尽力いただいた滋賀県実行委員会をはじめ、ボランティアの皆様、大会を応援いただいた滋賀県民の皆様はもとより、ご支援をいただきました協賛社様、関係機関・団体の全ての皆様方に対し、心から感謝申し上げます。

滋賀県選手団の天皇杯及び皇后杯の獲得は、実に開催県として6年ぶりであり、地元開催に向けて努力し続けた滋賀県の結束力が生んだ成果です。各競技で活躍された選手団の皆様に対し、心から賛辞をお贈りいたします。

全国各地から参加された選手団や観客の方々、滋賀県の皆様からの心温まるおもてなしと熱い声援を受け、貴重な思い出を胸に帰郷されたことと思います。

選手の皆様には、この大会で得た貴重な経験を活かし、今後益々のご活躍により、全国にスポーツの力と滋賀県の魅力を発信いただければと思います。

結びに、この報告書が「わたSHIGA輝く国スポ」の貴重な記録として、今後のスポーツの推進に広く活用されますことを祈念いたします。

発刊に寄せて



公益財団法人日本パラスポーツ協会
会長 森 和之

昨年、滋賀県において「わたSHIGA輝く障スポ」を合言葉に第24回全国障害者スポーツ大会が盛大に開催され、全国から集まった選手の皆さんが日頃の努力の成果を存分に発揮されました。多彩な競技と人々の熱意が織りなす感動の舞台が展開され、大会スローガン「湖国の感動 未来へつなぐ」が象徴する通り、琵琶湖の大自然と地域の温もりが選手、応援者、そしてスタッフの心をついにし、かけがえのない瞬間をつむぎ出しました。

大会を通じて、スポーツの持つ力と、人と人が支え合う温かい絆を改めて感じる事ができましたことに感謝申し上げます。

それぞれの競技場では、限界に挑む姿に会場が湧き、障がいの有無にかかわらず誰もが互いを讃え合う姿が印象的でした。本大会は、多くの皆さまのご理解とご支援なくしては成功を収めることはできませんでした。主催・運営に関わってくださった関係機関・自治体・競技団体の皆さま、設営にご尽力いただいたボランティア、そして滋賀の地で温かいおもてなしを提供くださった地域の皆さまに心より御礼申し上げます。

また、障害者スポーツが共生社会の礎となるという確信を新たにできる機会ともなりました。第24回全国障害者スポーツ大会の報告書発刊にあたり、本報告書は、記録としてだけでなく、その意義や学び、次代への希望を広く共有するための貴重な資料です。この報告書が皆さまの活動の一助となり、滋賀で紡がれた「湖国の感動」が未来へとつながり続けることを祈念し、ここにご挨拶といたします。



文部科学大臣
松本 洋平

「湖国の感動 未来へつなぐ」をスローガンとして、美しく彩りある豊かな自然の魅力にあふれ、歴史と文化が息づく滋賀県において実施されました「わたSHIGA輝く国スポ・障スポ」が、多くの成果と感動を残し、成功のうちに閉会しましたことを心からお喜び申し上げます。

これもひとえに、滋賀県民の皆さんが、参加する全ての人をおもてなしの心で温かく迎える大会となるよう、県をあげて諸準備・運営に当たられた賜物であり、その御尽力に深く敬意を表します。

また、参加された選手の皆さんが、日頃鍛えた力と技を存分に発揮し、滋賀県内各地で繰り広げられた熱戦の数々により、全国の皆さんへ、大きな感動とスポーツのすばらしさを伝えることができました。

国民体育大会から国民スポーツ大会への名称変更後2度目の開催となった大会は、環境に配慮した取組をはじめ、スポーツの力を活用し、持続可能な社会づくりに貢献していくなど、今後のモデルケースとなる大会となりました。

両大会における滋賀県選手団の活躍は目を見張るものがありました。「わたSHIGA輝く国スポ」では滋賀県は男女総合優勝・女子総合優勝という成績を収め、前回大会から大躍進されるとともに、今後の競技力の維持・向上、県民のスポーツ振興に寄与する成果を残されました。

「わたSHIGA輝く障スポ」では、滋賀県選手団としては男女合わせ174個のメダルを獲得され、大会を盛り上げ、パラスポーツの普及・発展に大いに寄与されました。これも、選手の皆さんと選手を支える方々の長年にわたる地道な御努力が結実したものであると思います。

今後、日本で開催される様々な国際大会の成功に向け、スポーツイベント等を通じて、日本全国で機運を盛り上げていくとともに、今大会に出場された選手の中から、世界の舞台へ羽ばたくアスリートが数多く輩出されることを期待しております。

結びに、本報告書が、「わたSHIGA輝く国スポ・障スポ」の足跡を示す記録として、また、我が国のスポーツの普及・発展に寄与する貴重な資料として、広く活用されることを祈念いたします。